

かぐや搭載レーザ高度計 (LALT) の運用状況

The status of laser altimeter (LALT) on board KAGUYA

田澤 誠一 [1]; 荒木 博志 [1]; 野田 寛大 [2]; 石原 吉明 [1]; 右田 恵美子 [3]; 坪川 恒也 [4]; 河野 宣之 [1]; 佐々木 晶 [1]
Seichi Tazawa[1]; Hiroshi Araki[1]; Hiroto Noda[2]; Yoshiaki Ishihara[1]; Emiko Migita[3]; Tsuneya Tsubokawa[4];
Nobuyuki Kawano[1]; Sho Sasaki[1]

[1] 国立天文台 RISE; [2] 国立天文台 RISE; [3] 総研大; [4] なし
[1] RISE, NAOJ; [2] RISE, NAOJ; [3] SOKENDAI; [4] None

レーザ高度計 (LALT) は月周回衛星「かぐや」(SELENE)の主衛星に搭載され、主衛星と月面の距離を測る装置である。「かぐや」は2007年9月14日10時31分01秒に種子島宇宙センターよりH-IIA ロケット13号機にて打ち上げられ、10/9,10/12のRstar,Vstarの分離運用を経て、10/18に観測軌道(80km × 120km)に到達した。LALTは11月25日に初観測を行い、12月25日に受光系感度の調整を行った後、12月30日から定常観測を開始した。

LALTは定常観測開始から1ヶ月で総計測数250万点以上を達成し、3順目の観測に入っている。本発表ではLALTの送受光系の動作状況、各部健全性、およびデータの取得状況について報告する。